

こどもの意思・意見の反映 医療的ケア児の意見をどのように聞くか

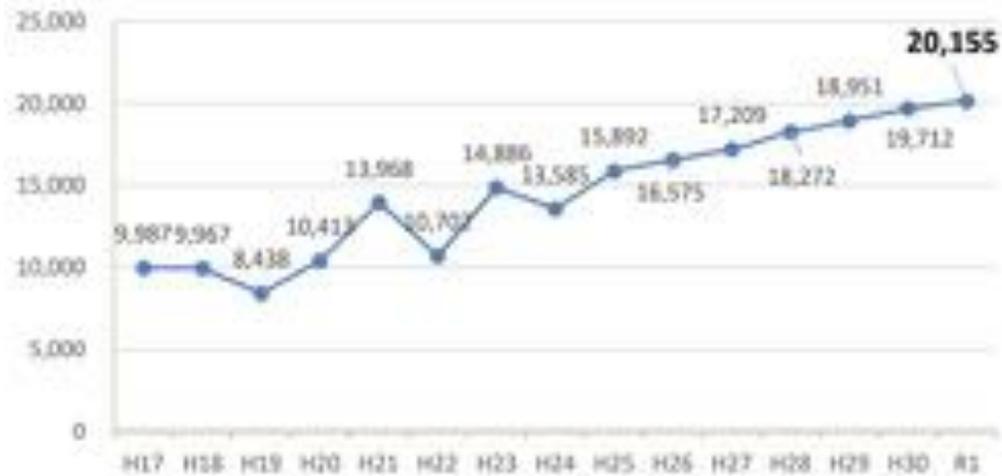
2022.9.16.

紅谷 浩之 BENIYA HIROYUKI



こども家庭庁
こども政策決定過程における
こどもの意見反映プロセスの在り方に関する調査研究検討委員会

在宅の医療的ケア児の推計値(0~19歳)



知的障害児 およそ150人に1人
身体障害児 およそ190人に1人
精神障害児 およそ110人に1人
医療的ケア児 およそ1000人に1人
発達障害児はおよそ7万人?

国民のおよそ6%が何らかの障害を持っている





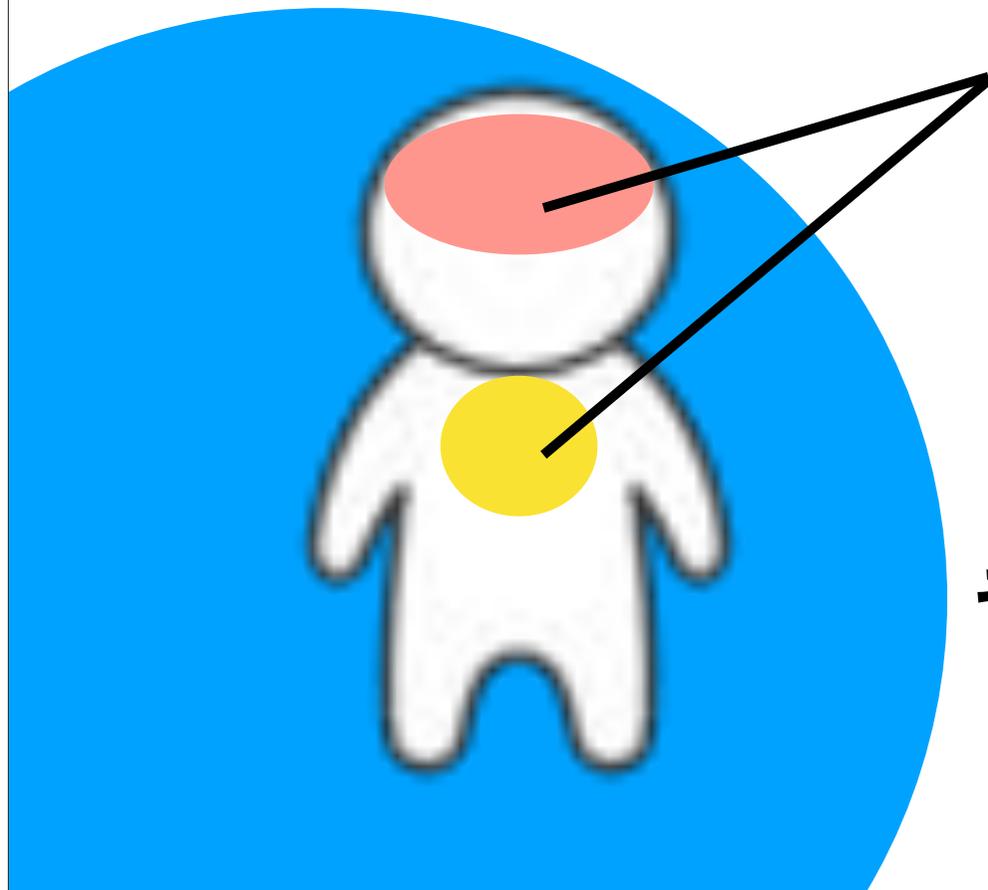
こどもの意見を聞く

意思を確認するのが難しく感じる人には？

× 意思を述べるのが難しいだろう、決めてあげよう

○ 本人中心の対話を繰り返すことで理解しようとする、し続ける

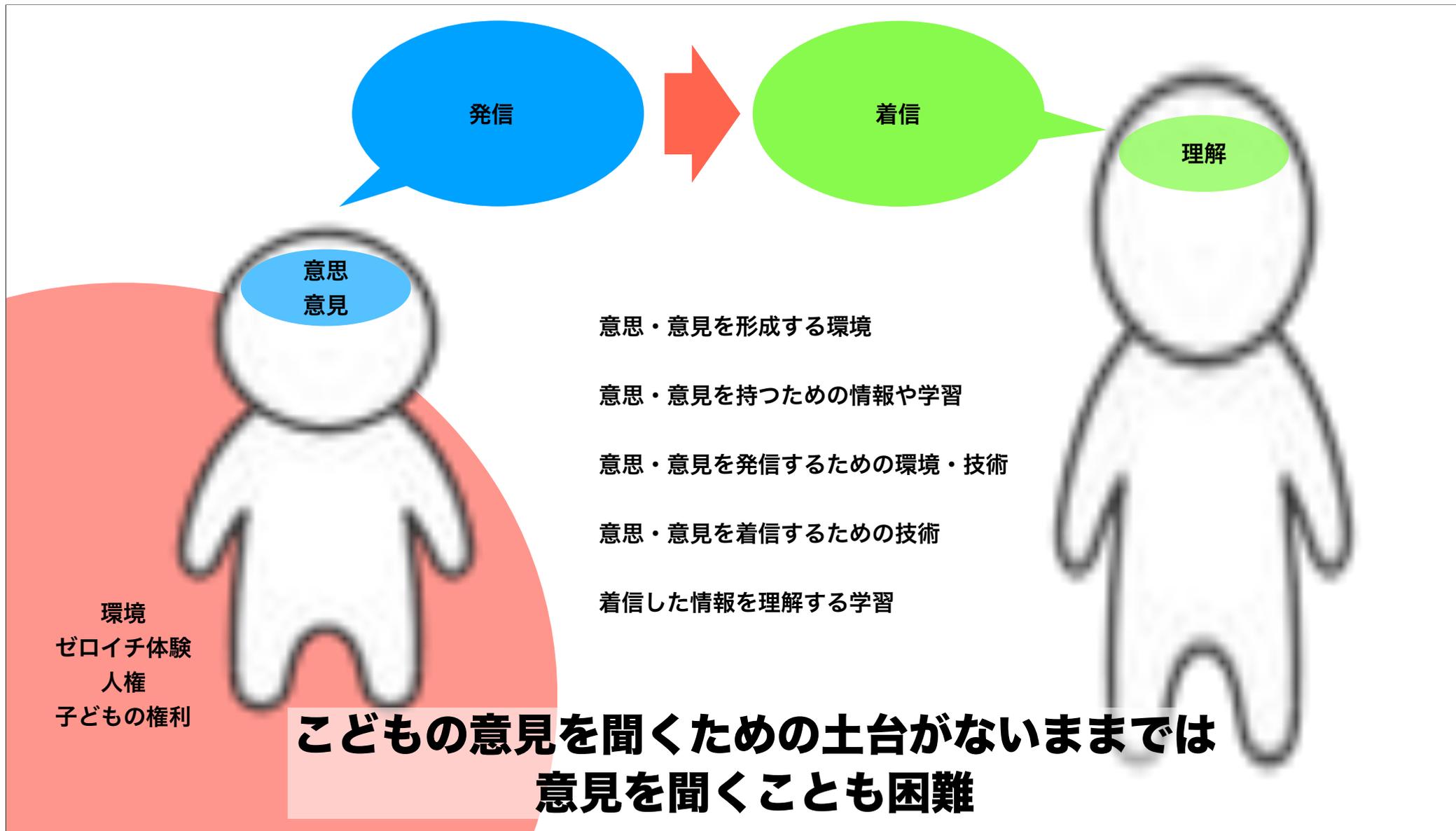
医療的ケア児にとっての 「生きづらさ」はどこにあるのか？



脳や心臓・肺、など
個の内面にある課題
(病気によって定義される)

↓ のみではなく

その子を取りまく環境すべて
(聞いてくれない、
受け入れてくれない、
発信できないと思われる)



今回、モデル事業として、

医療的ケア児等から直接意見を聞くことが難しく、
関係有識者からヒアリングを行う、とすることについて

この「難しさ」は、医療的ケア児等側に課題があるのではなく

医療的ケア児等が意見を形成できるような教育システム、医療技術
医療的ケア児等が意見を発信できるような技術システム、環境整備
医療的ケア児等の発信を理解できるような人材育成
などが不足しているためであり、

それらが準備できるまでの間に限り、関係有識者等からのヒアリングで行わざるを得ない
状況であるから、だと考えます。